

### 今号の内容

◆平成 25 年度予算	2～5
◆柳川・みやま「いきいきプラン 21」最終評価報告ほか	6～7
◆合併処理浄化槽上乘せ補助を継続ほか	8～9
◆PM2.5 の注意情報の発表方法ほか	10～11
◆結婚サポートセンター会員募集ほか	12～13
◆市民のひろば (14-15) ◆川柳 (15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (16-17) ◆情報わいど (18-23) ◆がんばったね (23-24) ◆柳川にこの人あり 河村定子さん (24) ◆もちふみデビュー (25) ◆保健ガイド (26-27) ◆新市史抄片 (28)	

## 一票にまちの将来を託そう

### 柳川市長選挙・柳川市議会議員補欠選挙

投票は **4月14日(日)**、午前7時～午後8時  
 期日前投票は 4月8日(月)～13日(土)、午前8時30分～午後8時

■当日投票所 郵送する「投票所入場整理券」に記載の場所  
 ■期日前投票 市役所柳川庁舎 3階第1会議室、大和庁舎 1階第1会議室、三橋庁舎 1階ロビー

問い合わせは、市選挙管理委員会事務局 (☎77・8491) まで。

### 心を磨く ― 安東省菴の思想 ―

安東省菴 (1622～1701) は柳川藩の儒学者で、「朱子学」から出発して後に「陽明学」も学びました。今回はこの朱子学・陽明学について紹介したいと思います。

朱子学とは、中国の南宋時代に朱子 (1130～1200) によって集大成された儒学です。朱子は、聖人になろうと志すならば、まずは四書 (『大学』『論語』『孟子』『中庸』) などの儒学の經典を学ばなければならないと説きました。その結果、書物の研究にばかり熱中して、自らの「心」を磨こうともしない学者がたくさん現れました。



『学蔀通弁』安東省菴の跋文 (柳川古文書館寄託「伝習館文庫」)

これに異議を唱えたのが明代の王陽明 (1472～1529) です。陽明は、学問の真の目的は、書物を研究することではなく、日々の生活や仕事の中で自らの心を磨き (事上磨錬)、自らの良心を発揮すること (致良知) にあると説きました。しかし、これは当時の朱子学者から強い反発を受け、『学蔀通弁』などの陽明学批判書が出版されます。陽明学は、儒学の經典を否定する危険思想であるというわけです。陽明は經典を否定したわけではなかったのですが、理解されることはありませんでした。そしてこうした朱子学を絶対とする儒学が、朝鮮半島を経由して日本

に入ってきました。安東省菴もその影響を強く受け、『学蔀通弁』に自ら跋文を書いて出版までしています。しかし、このような省菴にも大きな転機が訪れます。それが朱舜水 (1600～1682) との出会いです。舜水は、「王陽明にも欠点はあるが、よい点も極めて多い」と言って省菴に大きな衝撃を与えます。また朱舜水は、朱子学と陽明学とは、学問の方法に違いこそあれ、ともに自らの心を磨いて聖人になることを目的とする点では同じだと教えました。こうして省菴は一変して陽明学を容認し、学派にとらわれない真の学者へと成長していったのです。安東省菴に次のような言葉があります。

県南地域史料調査会 伊香賀 隆

#### 『理学抄要』

省菴の思想は、この一文に尽きるように思います。省菴はこの言葉の通り、80歳 (数え) で亡くなるその時まで、自らに鞭打って修養に励み、自らの心を磨き続けたのです。

### 編集後記

●戦場カメラン、ロバート・キャバの名言。「君がよい写真を撮れないのは、あと半歩の踏み込みが足りないからだよ。単に近寄って撮影しろという意味もあるのだから、それ以上に被写体の内面や背景を理解する大切さを示唆しているように感じる。何年やつても写真は難しい。」

●寒かった冬から一気に暖かな春になって、体がなかなかついていかない。「春眠暁を覚えず」よろしく、朝起きるのも一苦労。今年は花粉の飛散も例年より多いようで、目や鼻のムズムズをなんとか薬でごまかしている始末。取材しているときに、くしゃみや鼻水が出ないか心配だ。(賢治)

●若手職員が集まりで話題がこの編集後記に。皆さん熱心に読まれているようで、私の編集後記に対してさまざまな意見を頂いた。ありがたいことに、ネタの提供までしてくれた先輩も。そこで今回は、頂いた貴重な意見やネタは、酒の席でよく覚えていないというネタにします。(和久)

平成 25 年 2 月末現在

## 人のうごき

- 人口 70,885 人 (前月比 -34)
- 男 33,584 人 (-10)
- 女 37,301 人 (-24)
- 出生 30 人、死亡 67 人
- 転入 120 人、転出 117 人
- 世帯数 24,853 世帯 (+6)